

教祖年祭へ「喜びと挑戦」を

大教会春季大祭執行

立教 188 年の大教会春季大祭が 1 月 13 日に執り行われ、部内教会長やようばく信者が一心にみかぐらうたを唱和した。祭典講話には本部准員・山田清三先生が登壇され、春季大祭祭典後には、神殿で教会長年頭連絡会が行われた。



発行
天理教本愛大教会

〒 453-0821
名古屋市中村区大宮町 1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒 632-0071
奈良県天理市田井庄町 19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広報部

大教会の春季大祭は 1 月 13 日、厳かに執行された。午前 10 時、大教会長が祭文を奏上。教祖百四十年祭に向かう三年千日締めくくりの年を、活動目標に沿って、身近なところから一生懸命に取り組み決意を述べた。祭文奏上に続いて座りづとめ・十二下りてをどりが勇んで勤められ、参拝場には参拝に集った教信者の唱和する、明るく勇んだ声が響いた。

続いて祭典講話が行われ、本部准員・山田清三先生が「月日のやしろ」について話された(写真下)。

講話の冒頭、自身が 30 年来抱いていた疑問に対して「教祖は月日のやしろや。月日のやしろは月様、日様

年間活動目標

今日を陽気に。
つながる、
つなげる。



のやしろや」との答えをもらい、長年の疑問が氷解した話を紹介。これがすんなり心に治まったのは、自分が元の理を勉強していたからであるとして、先人の逸話や自身の体験談などを交えながら、元の理や理の働きについて、ご教示をくださいました。

続いて挨拶に立った大教会長は、いろいろなことに挑戦することが、先を樂しみに通るためのポイントであり、教祖にお喜び頂けた

めにも、一つでも多くの喜びを教祖にご報告申し上げることが大切であると述べて、年祭活動の最後の 1 年は、「喜びと挑戦」を合言葉に、「喜びの百四十年祭だったと言えようように、お互いに勇ませ合いながら、今年一年を歩ませていただきたい」と話した(講話は YouTube で視聴いただけます。4 ページの QR コードからご覧ください)。

祭典後には、神殿で教会長年頭連絡会が行われた。大教会長は、大教会の第 3 駐車場に隣接する土地を今年取得することを発表。また、6 月と 11 月をおぢばがえりの強調月としている、うちわけ会おぢばがえりについて、6 月は各教会で、11 月は 23 日に大教会として一斉団参を行うと述べた。

その後、各部各会から本年予定されている諸活動について、連絡が行われた。

入社祭	1 日	午前 10 時
よふき会例会	2 日	午前 10 時
月次祭	13 日	午前 10 時
青年会例会	13 日	午前 10 時
布教実修所	14 日	午前 10 時
むつみ会例会	16 日	午前 10 時
鼓笛隊練習日	16 日	午前 10 時
子ども食堂 MOGU	17 日	午後 5 時
婦人会例会	20 日	午前 10 時
女子青年例会	24 日	午前 10 時
本部月次祭	26 日	午前 9 時

2 月のこよみ

現代に生かす

「用木の道」

文・安藤吉人



大教会では、今年も昨年を引き続いて、「今日を陽気に。つなげる、つながる。」を活動目標に掲げました。

また、それと同時に今年

は「喜びと挑戦」というキーワードも、本愛につながる皆さんにはぜひ心に留めておいていただきたいと思います。

今年の干支は巳年です。

へビは脱皮を繰り返して成長します。このことから世間では巳年は「柔軟性とポジティブな姿勢が大切な年」と言われているそうです。変化をチャンスに変える、葛藤を乗り越えるといったことをが期待される年とも言われているようです。このような年には、やは

り「挑戦」という言

葉がふさわしいので

はないかと思えます

それぞれがこれまで

やろうと思っ

てきてい

な

など、おたすけや

お道の活動だけでなく、プ

ライベートでも、ぜひさま

ざまなことに挑戦する年に

していただ

きたいと感

じま

す。

「喜んでいたなあ」

もう一つの「喜び」ということについては、増井りん先生

の逸話を思い返して

いただきました

と思います。

雪の降りしきる中、危険

な道中を通

ってお

ちばに帰

つてきた

りん先生に、



「ようこそ帰って来たなあ。親神が手を引いて連れて帰ったのやで」とおっしゃいました。しかし、それだけではなく「その中

にて喜んで

いたなあ。さあ

さあ親

神が十分々々受け取るで」

とお話になりました(『稿

本天理教教祖伝逸話篇』44

「雪の日」)。

私たちも、教祖にこのよ

うにおっし

ゃっていただけ

るように通

ることが、最

も親神様、教祖

にお喜びいた

だけるあり方

ではないかと

私は考え

ます。

親が何を

見て喜ぶのか

と

い

えば、それは

やはり「子供

6月と11月の「うちわけ会

団参」や、各自のおちばが

えりへとつなげていただき

おちばで直接教祖に「こん

なありがたいことがありま

した」とご報告しまし

よう

その報告を一つでも多くで

きるような一年にしたいと

思

います。

「喜びと挑戦」というテ

ー

マにはそ

うした意味を込

め

ました。

ところで、私の母方の祖

父が残した書に「喜べぬ中

喜べば 喜びに喜びの咲く

喜びの道」というものがあ

ります。人は、自分が思っ

てもいないようなことが起

きてきたときに喜べないこ

とがほとんどです。けれど

立教187年(令和6年)

年間教務統計

初席者

直轄 本名 3 1 本桑名

本名 1 1 本愛守

本名 1 1 本今村

本名 1 1 本愛福

本名 1 1 本愛岳

本名 1 1 本愛中

本名 1 1 本愛慶心

本名 1 1 本尾愛

本名 1 1 本美咲

本名 1 1 本豊國

本名 1 1 以上41名

おさづけの理拝戴者

直轄 本則武 1 1 本則武

本名 1 1 本仁愛

本名 1 1 本一心

本名 1 1 本喜愛

本名 1 1 本愛湊

本名 1 1 本愛中

本名 1 1 本愛慶心

本名 1 1 本豊國

本名 1 1 以上26名

本名 1 1 以上26名

本名 1 1 以上26名

本名 1 1 以上26名

修養科修了者

本名 1 1 本尾州 2

本名 1 1 本愛アトナ 1

本名 1 1 以上5名

本名 1 1 以上2名

教人登録者

本名 2 以上2名

教理随想

言わん言えんの理を探る



本愛大教会は 大正三年七月十二日に設立され、昨年は創立百十周年を迎えました。この間に会長の代も変わり現在は六代目。初代会長様から受け継がれる、ちば一条の信仰を基盤として、会長を中心とめ一条・たすけ一条の活動が進められています。

ところでひと口に百十年といいますが、この間に世の中は大きく変わりました。科学技術や生活習慣は言うに及ばず、人々の物の見方や考え方など、本愛設立当時と今とはまるで別世界

といっています。特にここ三十年ほどの間のコンピュータの進歩と普及により、生活や仕事が急速に便利になったことは誰も否定できないでしょう。そして便利さに伴って物が豊かになり、お金さえ出せばいつでもどこでも多くの物は手に入るようになりました。

一方、精神面でも考え方は大きく変わり、昔に比べて発言も行動も自由闊達になりました。今のような暮らしぶりは、当時の人々から見たらとても想像できないかもしれません。

しかしながら、生活がこんなに便利で豊かで自由になったにもかかわらず、現代の世の中で幸せを味わえない人が多くいるのはなぜでしょうか。そのヒントを

教祖の教えに求めてみたいと思います。

教祖は「二つ一つが天の理」とお教えくださいました。この世の中のありとあらゆるものは、二つが一つになって成り立っているという意味です。たとえば天と地が一体になることでこの世界が形成され、世界の中では火と水のバランスによつて命が保たれています。そして男と女で新しい生命が誕生し、一人の人間も心と体が一つになって生きている。このように、地球規模の大きな事柄から身近な生活に至るまで、一つの現象を二つの側面から見ることを教えられたのがこのお

言葉です。

■表と裏の二つで一つ

私たちが日常生活で使うどんな物質にも表と裏があります。一枚の紙も洋服も建物も、すべて表裏が一体となって成り立っています。建物でいえば外観や機能性

という表側も大事ですが、それ以上に基礎や土台、また天井裏や縁の下の構造が重要であることを私たちはよく承知しています。

それと同じことが便利さや豊かさにもいえるのではないかと、というのが信仰者としての捉え方です。つまり、便利さの裏には必ず危険が伴うという事実。また豊かさを幸せにつなげるには、その裏側に慎みや謙虚な心が必要であるという点。そして自由の裏には必ず責任が伴うということ。こうした二つの見方で文化文明の進歩を享受すれば、その先で必ず幸せが味わえる

という真実を、「二つ一つが天の理」という教えから学ぶことができるのではないのでしょうか。

おふでさきに、

にんげんの心とゆうハあざのふて みへたる事をばかりゆうなり

(三一五)

とあります。私たちが今、ここに生きているという事実の裏側には、陽気ぐらしをさせてやりたいという親神様の親心が込められています。それは肉眼では見えにくいものですが、心の眼でしっかりと捉えることが重要です、教祖がひながたを通してお伝えくださったのがこの点であります。

教祖年祭へ向けて、ひながたを歩むことが最も重要とされる今、親神様の陰の親心を深く心に感じて、報恩感謝の生き方を心がけましょう。それが真にたすかる姿であり、本当の幸せを味わう道であります。

【第 121 回】

天の理に沿って深く思案し 蔭のご恩に報いる生き方を

YouTube 1月春季大祭 神殿講話
 本部准員 山田 清三先生



※左のQRコードを読み取ってご覧ください。
 本愛誌の読者限定で公開している動画ですのでチャンネル内の動画一覧からはご覧いただけません。

12月の初席者
 品田心羽 (本名)
 服部旬汰 (本桑名)
 田邊実夢 (本愛岳)
 黄呈禧 (本愛慶心)

12月のおさづけの理拝戴者
 牧義夫 (直轄)
 佐藤知沙 (本築)
 杉本健 (本愛湊)

うちわげ会
 おぢばがえり
 強調月間
 立教188年6月及び11月

胡三味弓線	小琴が	すりね	太鼓	拍子木	ちんぼん	笛	地	てをどり			開扉	贊者	指図方	扨者	祭主	立教百八十八年	
佐藤明美	吉佳子	都花枝	野道幸	加藤正一	田中新一	筑紫英保	桑子功雄	中山茂彦	杉村善順	山口恵子	安藤美恵子	青木奈美	佐藤孝子	安藤正二郎	前正二	大教会長	春季大祭
門田和美	塚浦よし	松田正信	吉尾孝誠	長野重吉	上野敏男	和倉敏男	坂倉孝男	種田光孝	安井篤	細川光	山神理恵子	渡邊真由美	出川敬子	久保真樹	松浦道太郎	青木健裕	祭典役割
伊藤純代	吉藤多喜	佐藤新喜	伊橋新一	大橋美公	大池壽一	佐々木壽	野々田正樹	津田正樹	相原宏	中島裕真	板山ひふみ	松口みつみ	出藤木真也	加藤木真也	鈴木本治	山本邦彦	長江行彦

大教会日誌

令和6年12月25日～令和7年1月24日

12月

- 26日 本部月次祭
- 28日 餅つきひのきしん
- 29日 年末清掃・迎春準備ひのきしん
 常任役員会議◇役員会議
- 31日 大祓式

1月

- 1日 元旦祭
 祭主 大教会長 扨者 杉村善男、山本正太郎
 指図方 青木健裕 賛者 安井篤、長良英男
 ◇大教会長挨拶
- 2日 よふき会初例会
- 5日 本部お節会 (7日まで)
- 12日 常任役員会議

13日 春季大祭

祭主 大教会長 扨者 都築隆道、大橋進
 指図方 安藤正二郎 賛者 塚原光男、佐藤幸一郎
 ◇祭典講話 本部准員 山田清三先生
 ◇大教会長挨拶

教会長年頭連絡会
 青年会初例会

- 14日 布教実修所
- 16日 むつみ会初例会
- 17日 こども食堂MOGU
- 20日 婦人会初例会
 こはる会初例会
 女子青年初例会